

2020年3月期 決算説明会

代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒
2020年5月13日

＜本プレゼンにおける掲載内容の変更について＞

- 2019年3月期3Qまでは所在地別にて掲載していましたが、2020年3月期より地域別での掲載へ変更しております。
- 所在地別の売上高、営業利益については、参考資料として掲載しております。

当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

Index

1. 2020年3月期 決算総括
2. 2021年3月期 業績予想の考え方
3. 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

(補足資料)

- 第4四半期業績比較
- 所在地別実績（売上高・営業利益）
- 関連子会社の収益状況
- 持続的な成長を支えるCSR課題への取り組み

1.

2020年3月期 決算総括

**2020年3月期は、一部地域において機器売上が増加するも、
検査需要減少に伴い試薬売上が減少**

2020年1月

3月

中国を中心に感染者が増加

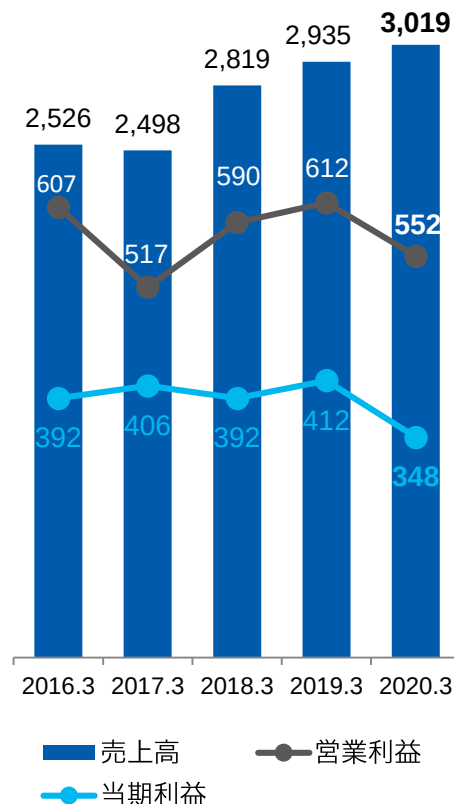
全世界へ影響拡大

事業への影響

1. 新型コロナウイルス感染症患者に対し、PCR検査に加え、ヘマトロジや血液凝固分野の検査需要が増加するも、ロックダウンの影響等により新型コロナウイルス以外の受診者数が減少し、全体では検査需要が減少
2. 感染者の増加に対応するため、一部新興国等で医療体制強化に向けた取り組みが推進され、検査機器設置台数が増加

決算総括（対前年同期）

（億円）



	2020年3月期	前年同期
1USD	108.7円	110.9円
1EUR	120.8円	128.4円
1CNY	15.6円	16.5円

（億円）

	2020年3月期		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	3,019.8	100%	2,935.0	100%	102.9%
売上原価	1,421.7	47.1%	1,318.9	44.9%	107.8%
販売費及び一般管理費	835.4	27.7%	812.3	27.7%	102.9%
研究開発費	217.6	7.2%	195.7	6.7%	111.1%
その他の営業損益	7.8	0.3%	4.8	0.2%	162.1%
営業利益	552.8	18.3%	612.8	20.9%	90.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	348.8	11.6%	412.2	14.0%	84.6%

- **売上高** 円高や、一部地域において新型コロナウイルス感染症の影響を受けるも、国内、海外共に伸長し、増収
- **営業利益** 円高の影響や、米州や中国におけるサービスコスト増加等による原価率悪化により、減益
 - 為替の影響 売上高 △118.2億円 営業利益 △52.8億円
 - 前年同期為替レート適用の場合 売上高 106.9% 営業利益 98.8%
- **当期利益** 為替差損や持分法投資損失、税負担率の増加等により、減益
 - 為替差損益 △30.1億円

決算総括（対計画）

	2020年3月期		業績予想 (19年11月修正公表)		(億円)
	実績	構成比	実績	構成比	達成率
売上高	3,019.8	100%	3,100.0	100%	97.4%
売上原価	1,421.7	47.1%	1,430.0	46.1%	99.4%
販売費及び一般管理費	835.4	27.7%	858.0	27.7%	97.4%
研究開発費	217.6	7.2%	220.0	7.1%	98.9%
その他の営業損益	7.8	0.3%	8.0	0.3%	98.1%
営業利益	552.8	18.3%	600.0	19.4%	92.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	348.8	11.6%	385.0	12.4%	90.6%

2020年3月期 想定為替レート		
1USD	108.7円	108.3円
1EUR	120.8円	120.7円
1CNY	15.6円	15.5円

● 売上高	米国における血液凝固、尿分野売上や、中南米やEMEAの代理店向け売上、新型コロナウイルス感染症流行により一部地域において4Q売上が減収し、未達
● 営業利益	売上の未達、原価率悪化による粗利の減少が影響し、未達
- 為替の影響	売上高 + 10.1億円 営業利益 + 4.7 億円
● 当期利益	営業利益の未達や、3月末の為替レート変動により為替差損が増加したことにより、未達
- 為替差損益	△13.4億円

米国における血液凝固、尿分野売上や、中南米やEMEAの代理店向け売上、新型コロナウイルス感染症流行により一部地域において4Q売上が減収し、未達

売上の未達、原価率悪化による粗利の減少が影響し、未達

売上高 +10.1億円 営業利益 +4.7 億円

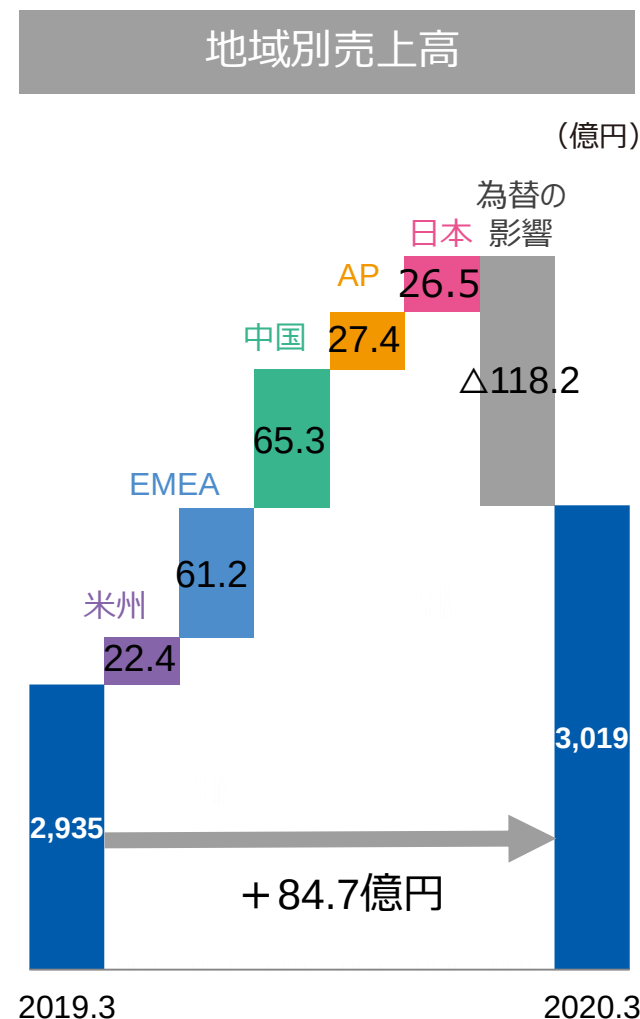
営業利益の未達や、3月末の為替レート変動により為替差損が増加したことにより、未達

△13.4億円

売上高の増減要因（地域別）

	2020年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	3,019.8	100.0%	102.9%	106.9%※
米州	710.3	23.5%	100.7%	102.8%
EMEA	772.5	25.6%	102.1%	108.4%
中国	800.4	26.5%	102.3%	108.4%
AP	269.1	8.9%	107.6%	111.0%※
日本	467.2	15.5%	106.0%	-

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



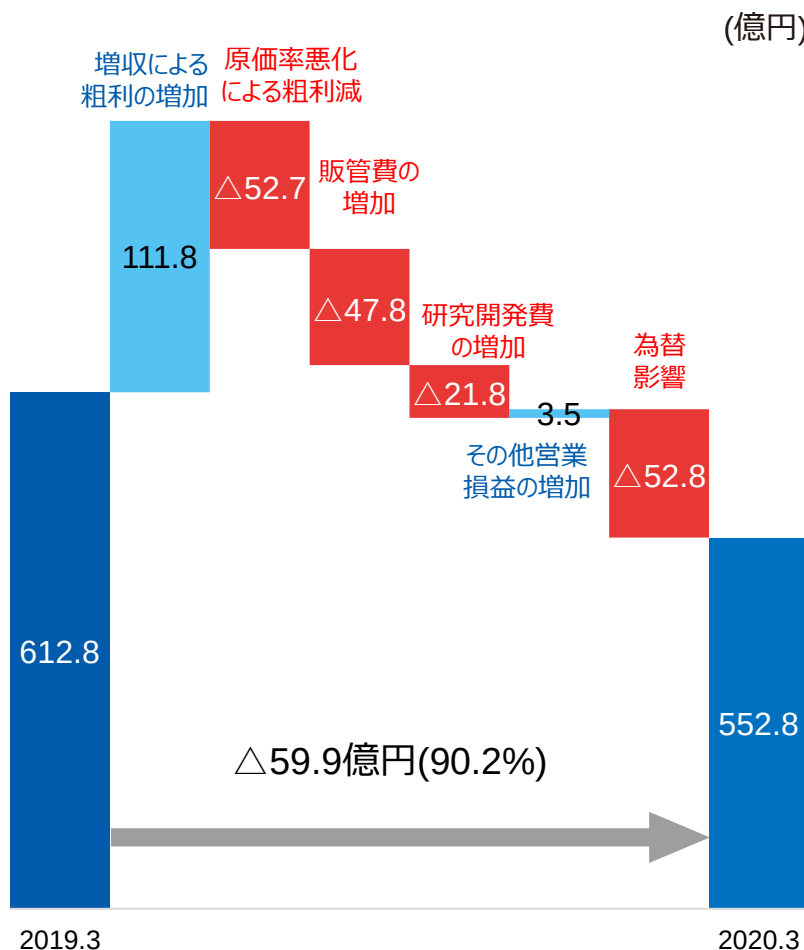
事業別・品目別売上高

								(億円)
			2020年3月期		前年同期		前年同期比	前年同期比 (前期レート)
			実績	構成比	実績	構成比		
事業別		ヘマトロジー	1,872.6	62.0%	1,816.9	61.9%	103.1%	107.0%
		血液凝固	482.5	16.0%	479.4	16.3%	100.6%	105.0%
		尿	212.7	7.0%	210.7	7.2%	101.0%	105.6%
		免疫	148.2	4.9%	139.2	4.7%	106.5%	110.3%
		生化学	29.1	1.0%	31.9	1.1%	91.3%	92.7%
		FCM事業	15.0	0.5%	15.3	0.5%	97.9%	102.3%
		IVDその他	146.5	4.9%	137.7	4.7%	106.4%	109.8%
		IVD事業	2,906.9	96.3%	2,831.4	96.5%	102.7%	106.7%
		LS事業	112.8	3.7%	103.6	3.5%	108.9%	113.3%
売上高 計			3,019.8	100.0%	2,935.0	100.0%	102.9%	106.9%

品目別	機器	812.0	26.9%	826.6	28.2%	98.2%	102.1%
	試薬 (中国での品目組み替えの影響を除く)※	1,731.7	57.3%	1,678.2	57.2%	103.2% (104.1%)	107.3% (108.3%)
	サービス (中国での品目組み替えの影響を除く)※	375.7	12.4%	345.8	11.8%	108.7% (104.5%)	112.2% (107.6%)
	その他	100.1	3.3%	84.2	2.9%	118.9%	124.3%
	売上高 計	3,019.8	100.0%	2,935.0	100.0%	102.9%	106.9%

※中国地域において、2019年3月期2Qまで「試薬」に計上していた売上の一部を、2019年3月期3Qより「サービス」へ組み替えています。

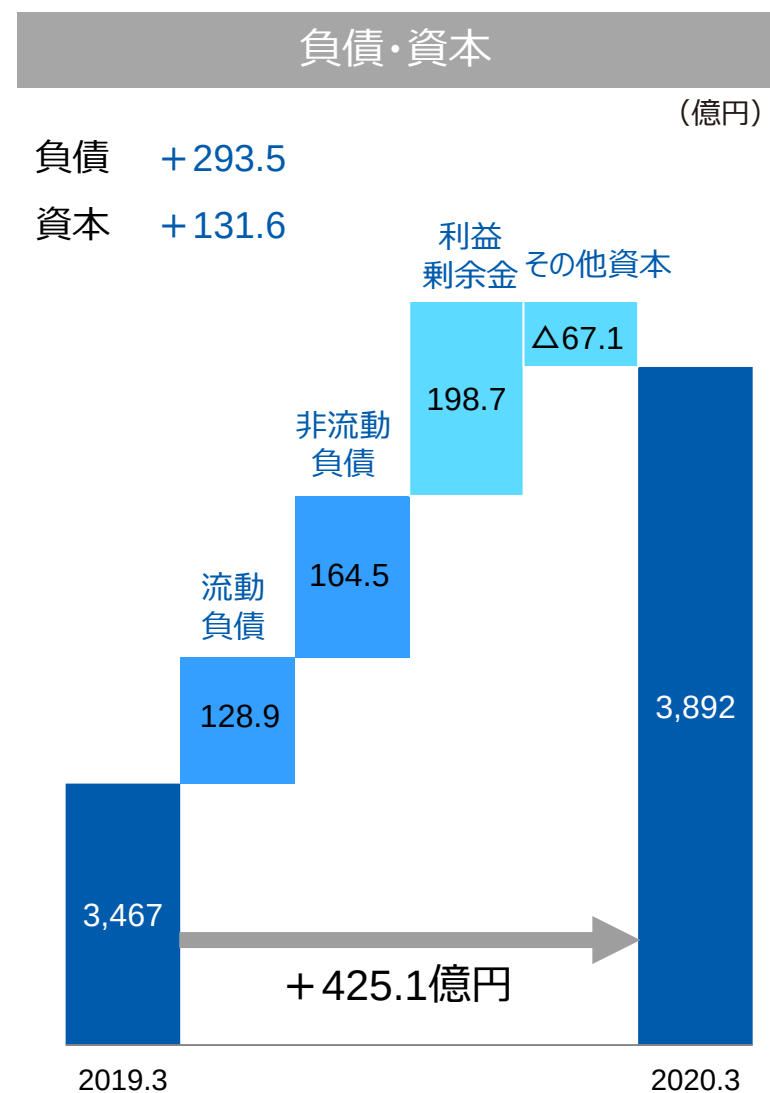
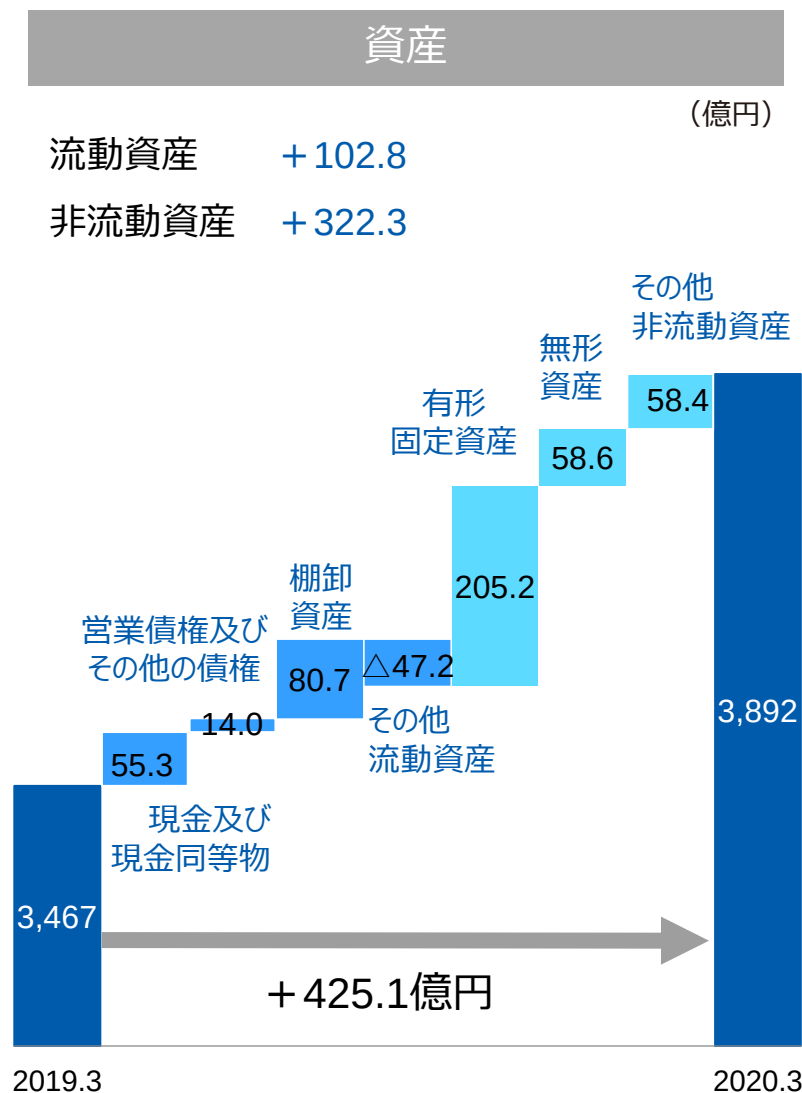
為替の影響や原価率悪化等により、減益



- 増収による粗利の増加 : 111.8億円
- 原価率の悪化 : 1.7pt (△52.7億円)
 - ・ 機器仕入れの増加等による影響 : +0.7pt
 - ・ 中国における販管費から原価への組み換え : +0.5pt
 - ・ 米州や中国におけるサービスコストの増加 : +0.5pt
 - ・ プロダクトミックスの変化（試薬構成比の上昇） : △0.6pt
- 販売管理費の増加 : 47.8億円
 - ・ 日本：バイオ診断薬拠点関連や、人員増、ストックオプション等による労務費増加の影響 : +28.6億円
 - ・ 米州：米国および中南米における販売体制の強化 : +13.8億円
 - ・ EMEA：尿分野直販等による販売体制の強化 : +12.9億円
- 研究開発費の増加 : 21.8億円
 - ・ ヘマトロジー新製品やLS事業等への投資 : +11.2億円
 - ・ バイオ診断薬拠点による費用増加 : +10.6億円
- 為替の影響 : △52.8億円

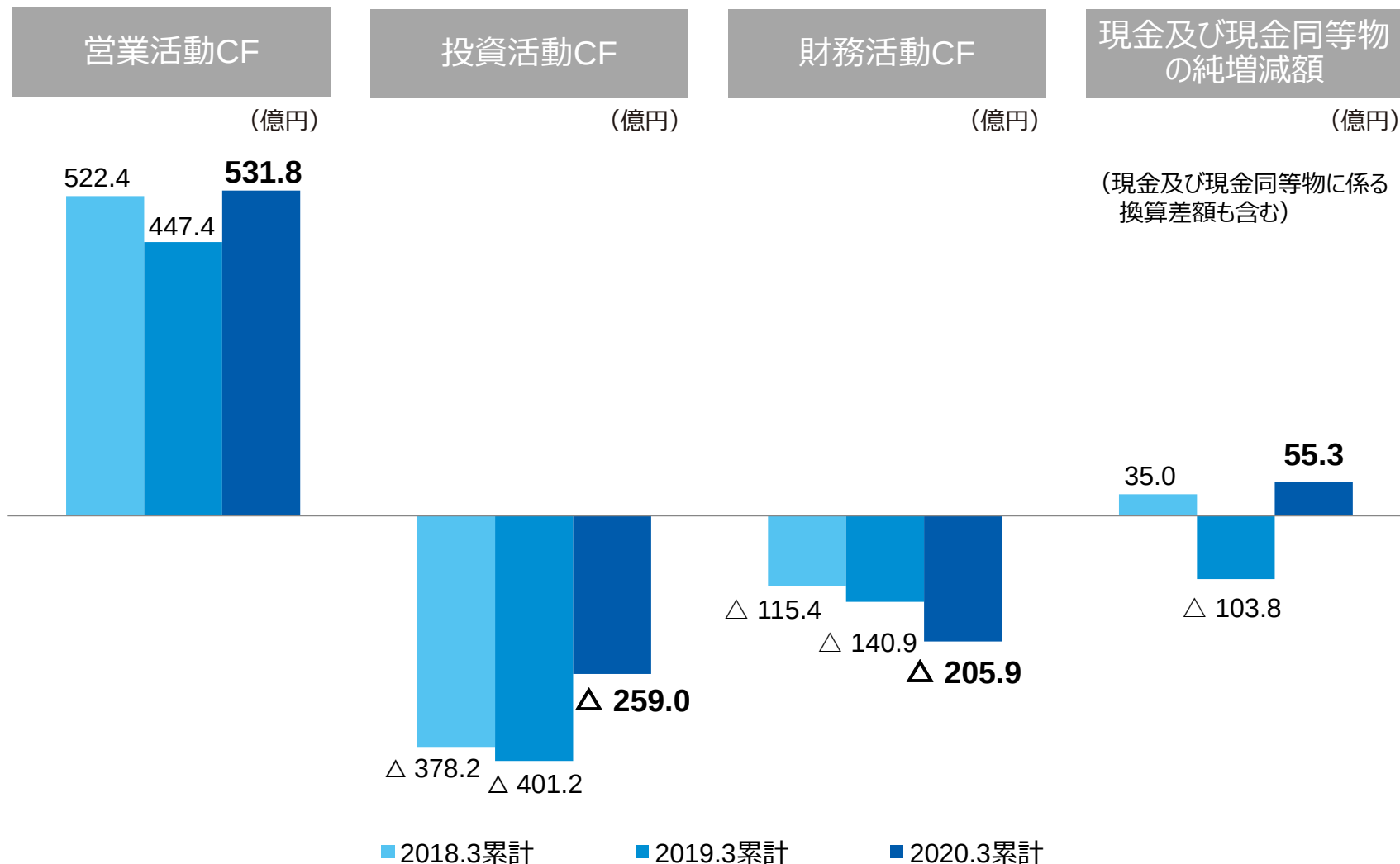
※ バイオ診断薬拠点関連費用合計 : +18.5億円
 (原価 : +3.8億円、販売管理費 : +4.1億円 研究開発費 : +10.6億円)

連結財政状態計算書の増減要因



※ IFRS16適用影響：有形固定資産、流動負債、非流動負債に影響

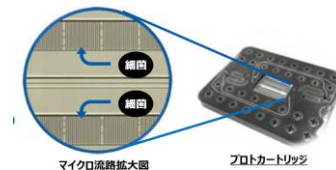
キャッシュフローの推移



※ IFRS16適用影響：2020.3の営業活動CF、財務活動CF

IVD事業

- 19年4月よりインドでヘマトロジー分野の販売体制を変更し、複数の大型案件を獲得
- 米国大手検査センターにおいて、ヘマトロジー分野の大型案件を受注
- ブラジルのヘマトロジー中下位市場において、3Qより新体制での販売を開始
- プライマリケア事業において尿路感染症のソリューション開発に向けAstrego Diagnosticsへ出資



Astrego社独自の
マイクロ流体技術

ライフサイエンス事業

- 2Qより、保険適用を受けたがんゲノムプロファイリング検査用システムの測定受託を開始
- 国内初リキッドバイオプシーによる大腸がんRAS遺伝子変異検査の製造販売承認を取得
- OSNA™法による乳がんリンパ節転移診断の補助に用いられる体外診断用医薬品が中国で薬事承認を取得
- BGI社と販売代理店契約を締結し、新型コロナウイルス検査キット(RT-PCR法)の日本における薬事承認を取得



RD-100i

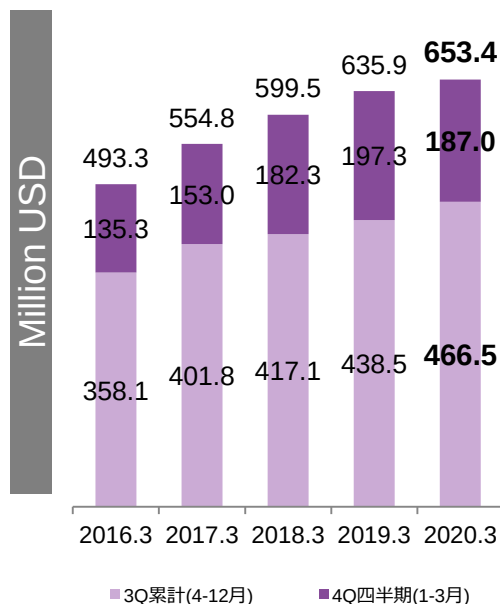
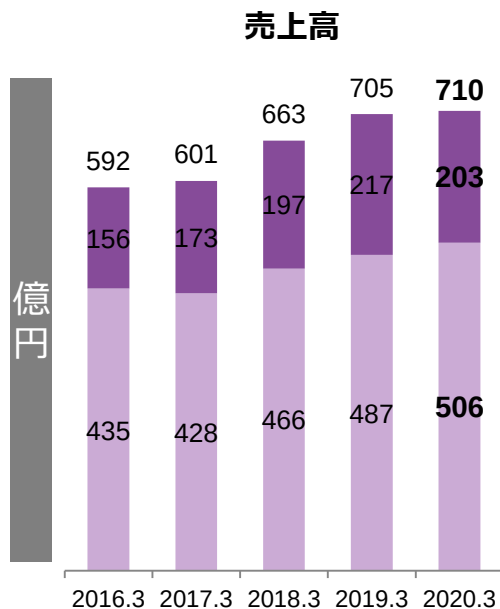
その他

- 持続的な成長の実現に向け、新たにグローバル共通のジョブ型人材マネジメントシステムを20年4月より導入
- 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に4年連続選定

MEMBER OF
Dow Jones
Sustainability Indices



In collaboration with a RobecoSAM brand



(億円)

	2020年3月期	前年同期	前年同期比	
			円ベース	現地通貨ベース
売上高	710.3	705.1	100.7%	102.8%
機器	221.5	245.7	90.2%	92.0%
試薬	315.6	292.3	108.0%	110.2%
サービス・その他	173.0	167.1	103.6%	105.6%

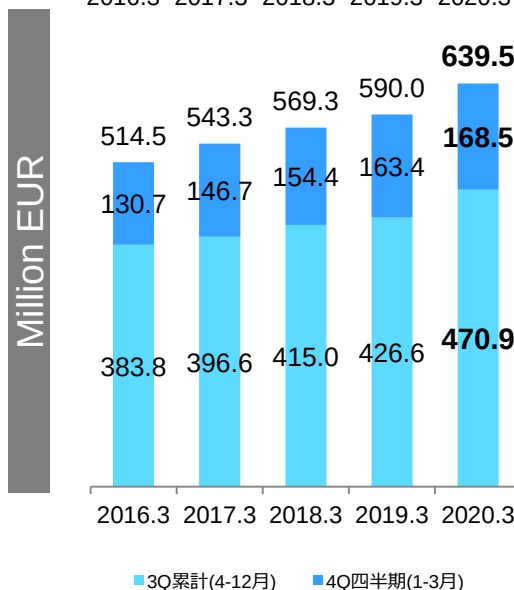
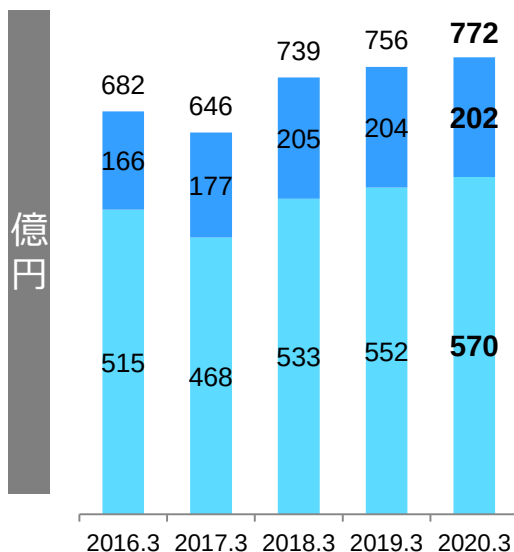
米国の血液凝固、尿分野に加え、中南米の代理店向け売上が減収するも、北米でのヘマトロジー分野における試薬売上が伸長し、増収

- 機器：米国において、前年同期に大手検査センター向け案件があった血液凝固分野や、中南米代理店向け売上の減少に加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴う機器設置遅延も影響し、減収
- 試薬：ヘマトロジー機器の設置台数増加により、北米にて試薬売上が堅調に推移したこと等により、増収

トピックス

- 米国大手検査センターにおいて、ヘマトロジー分野の大型案件を受注
- ブラジルのヘマトロジー中下位市場において、3Qより新体制での販売を開始

売上高



(億円)

2020年3月期

前年同期

前年同期比

円ベース

現地通貨ベース

売上高

772.5

756.7

102.1%

108.4%

機器

210.3

221.4

95.0%

100.7%

試薬

441.0

418.4

105.4%

112.0%

サービス・その他

121.1

116.8

103.6%

110.0%

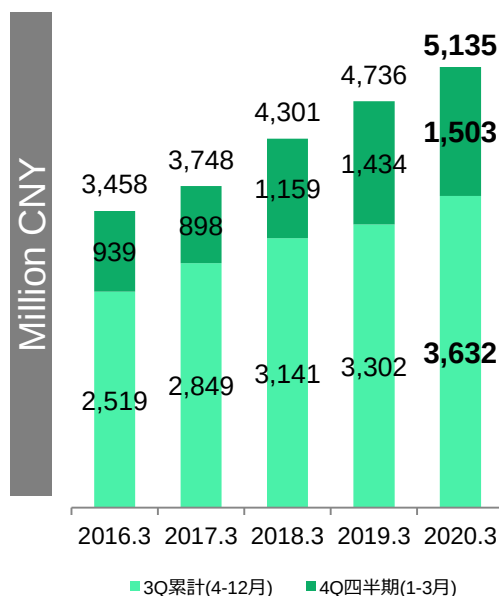
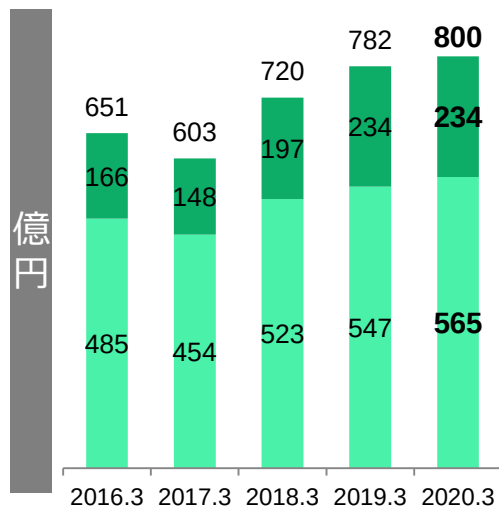
各地域におけるヘマトロジー試薬売上の伸長や、イギリス、フランスにおける尿分野の直販等が伸長し、増収

- 機器：直販が好調な尿分野売上の増加等はあるも、前期4Qにイタリアでヘマトロジー大型案件があった影響や、3月以降に各国でロックダウンなどにより活動が抑制され、通期では横ばい
- 試薬：主に中東やロシア等の新興国におけるヘマトロジー分野に加え、尿分野の新製品売上が伸長し、増収

トピックス

- 血液凝固分野の機器新製品を自社直販エリアにおいて発売開始（4Q）

売上高



■ 3Q累計(4-12月) ■ 4Q四半期(1-3月)

(億円)

2020年3月期

前年同期

前年同期比

円ベース

現地通貨ベース

売上高	800.4	782.1	102.3%	108.4%
機器	214.5	199.9	107.3%	113.7%
試薬 ※	503.6	531.9	94.7% (97.5%)	100.4% (103.3%)
サービス・その他 ※	82.2	50.2	163.9% (146.1%)	172.5% (154.0%)

※ ()内は、品目組み替えの影響を除いた場合の実績
(2019年3月期3Qより、「試薬」に計上していた売上の一部を「サービス」へ計上)

4Qの新型コロナウイルス感染拡大の影響により試薬売上が減少するも、機器売上が伸長し、増収

- 機器：4Qの新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、各分野の機器設置に加え、血液凝固分野の新製品も貢献し、大幅増収
- 試薬：新型コロナウイルス以外の受診抑制に伴い、4Qに検査需要が減少するも、通期では横ばい（品目組替の影響を除けば増収）

トピックス

- 血液凝固分野の機器新製品および新たに認可取得した免疫分野の試薬販売を開始（4Q）
- OSNATTM法による乳がんのリンパ節転移検査システムが12月に薬事承認を取得も、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり発売遅延

	2020年3月期	前年同期	前年同期比
			円ベース
売上高	269.1	250.2	107.6% (111.0%)
機器	62.6	68.5	91.4%
試薬	181.8	158.4	114.8%
サービス・その他	24.6	23.3	106.0%

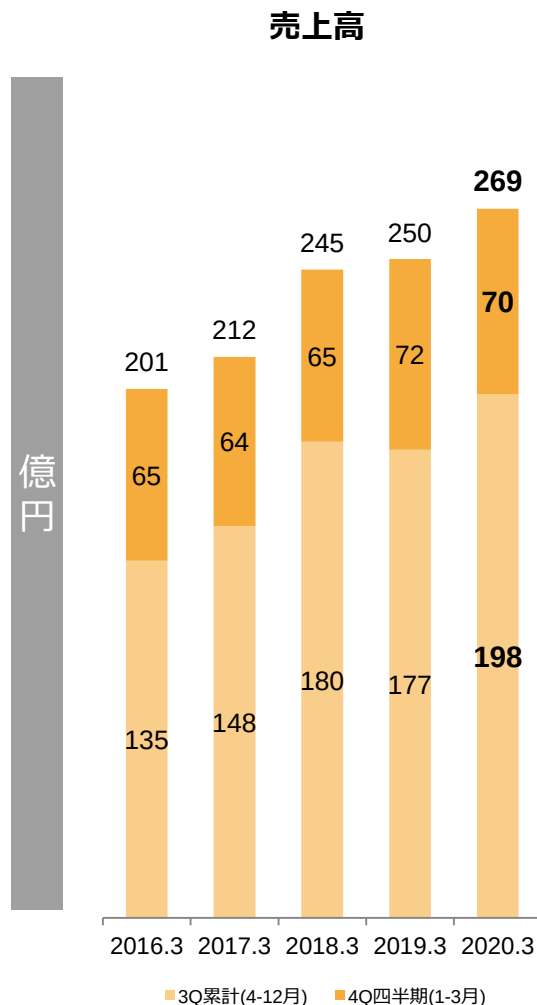
()は為替の影響を除いた場合

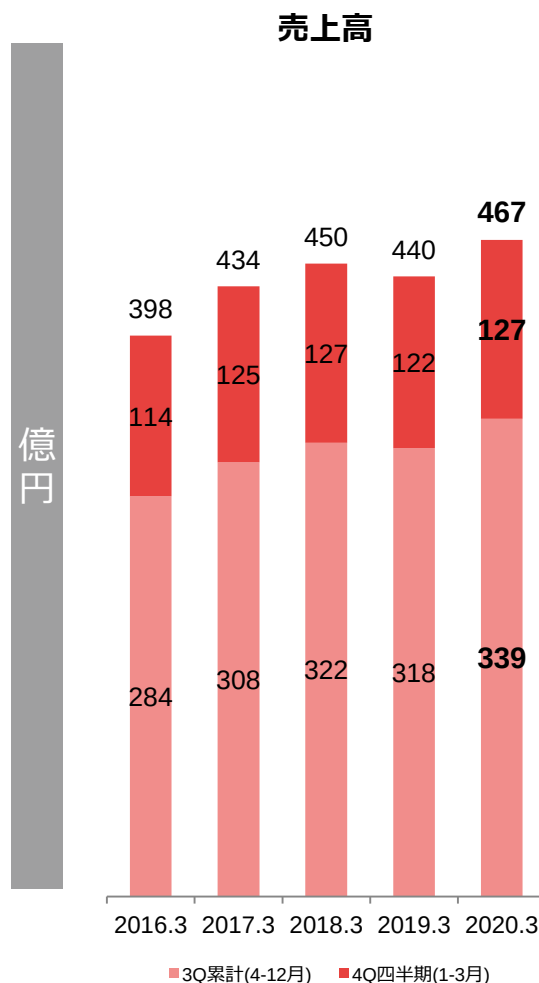
主にインドネシアで機器が減収となるも、インドでの売上伸長や、東南アジアを中心としたヘマトロジー試薬売上伸長等により、増収

- 機器：国民皆保険制度の財源不足が続くインドネシアの機器売上減少に加え、前年同期の台湾における大型案件の影響などにより、減収
- 試薬：デング熱の流行が長期化した東南アジア・南アジアにおいてヘマトロジー分野の売上伸長に加え、免疫分野も貢献し、2桁増収

トピックス

- タイ、フィリピン、シンガポールにおいて、血液凝固分野の機器新製品が薬事承認を取得（2021年3月期より発売開始）





(億円)	2020年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	467.2	440.7	106.0%
機器	102.9	91.0	113.2%
試薬	289.4	277.0	104.5%
サービス・その他	74.7	72.5	103.0%

ヘマトロジーおよび血液凝固分野における機器売上の伸長や、機器設置増加に伴う試薬売上の伸長等により、増収

- 機器：ヘマトロジー分野の案件獲得や、血液凝固分野のCNシリーズ導入加速による他社攻略が功を奏し、増収
- 試薬：血液凝固分野や免疫分野の売上の伸長等により、増収
- サービス・その他：NCCオンコパネル受託件数の増加等により、増収

トピックス

- 新型コロナウイルス感染症のPCR検査キットを発売開始（3月末）

・2019年3月期に対し、年間で2円の増配

	中間	期末	年間	配当性向
2019年3月期	34円	36円	70円	35.4 %
2020年3月期 （案）	36円	36円 [※]	72円	43.1 %

※第53回定時株主総会に付議する予定

2. 2021年3月期 業績予想の考え方

新型コロナウイルスのグローバルな感染拡大が市場の需要動向に与える影響を精査中であり、現段階では合理的な業績予想の算出が困難であるため、2021年3月期の連結業績予想および配当につきましては「未定」といたします。今後、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響（上半期業績見通し）

地域 (売上構成比)	行動規制の状況						上半期の売上見通し (対前年同期、単四半期)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
米州 (約25%)			米国 3月下旬			5月から段階的に緩和予定	1Q：約15%の減収 2Q：前年同期に対して微増程度 ✓ 米・欧・中では、1Q中の経済活動再開により需要回復 ✓ 一部欧州先進国（イタリア、スペインなど）や新興国市場（中南米、アフリカなど）では、下半期での回復を想定
EMEA (約25%)			欧州主要国 3月中旬			5月上旬から段階的に緩和	
中国 (約25%)				1月下旬		4月上旬から段階的に緩和	
AP (約10%)			インド 3月中旬			5月中旬までロックダウン継続	1Q-2Q：約20%の減収 ✓ 新興国市場が中心のため、回復に時間を要する ✓ 下半期に前年並みの回復を想定
			オーストラリア 3月下旬			5月上旬から段階的に緩和	
日本 (約15%)					4月上旬 (緊急事態宣言)	5月下旬まで継続	1Q-2Q：約5-10%の減収 ✓ 1Q中の経済活動再開により、段階的な回復を想定
Total							1Q：約10～15%の減収 2Q：前年同期に対し微減程度まで回復

※ 新型コロナウイルスによる影響は、主に試薬売上減少を想定

※ 上記見通しは、1Q以降に経済活動が段階的に再開される前提

3.

新型コロナウイルス感染症に対する 取り組み

グローバルにプロジェクトを展開。引き続き持続的な成長を目指す

■ お客様に対する供給継続

- ✓ 機器生産工場および、海外7カ国を含む試薬生産工場は滞りなく稼働。製品および原材料の在庫も保有し、お客様への安定供給を実現
- ✓ 直販地域に加え、代理店へのサポートも継続し、感染拡大地域でも、病院で必要な検査を止めないためサービス&サポートを継続（オンラインサポートも活用）

■ 従業員に対する取り組み

- ✓ 従業員の雇用を維持、安心して働ける環境を整備
 - グループ全体で、従業員（パートタイマー・派遣社員含む）の雇用を維持（9,000名以上）
 - テレワークを世界中で推進（在宅勤務は感染拡大前から導入済）

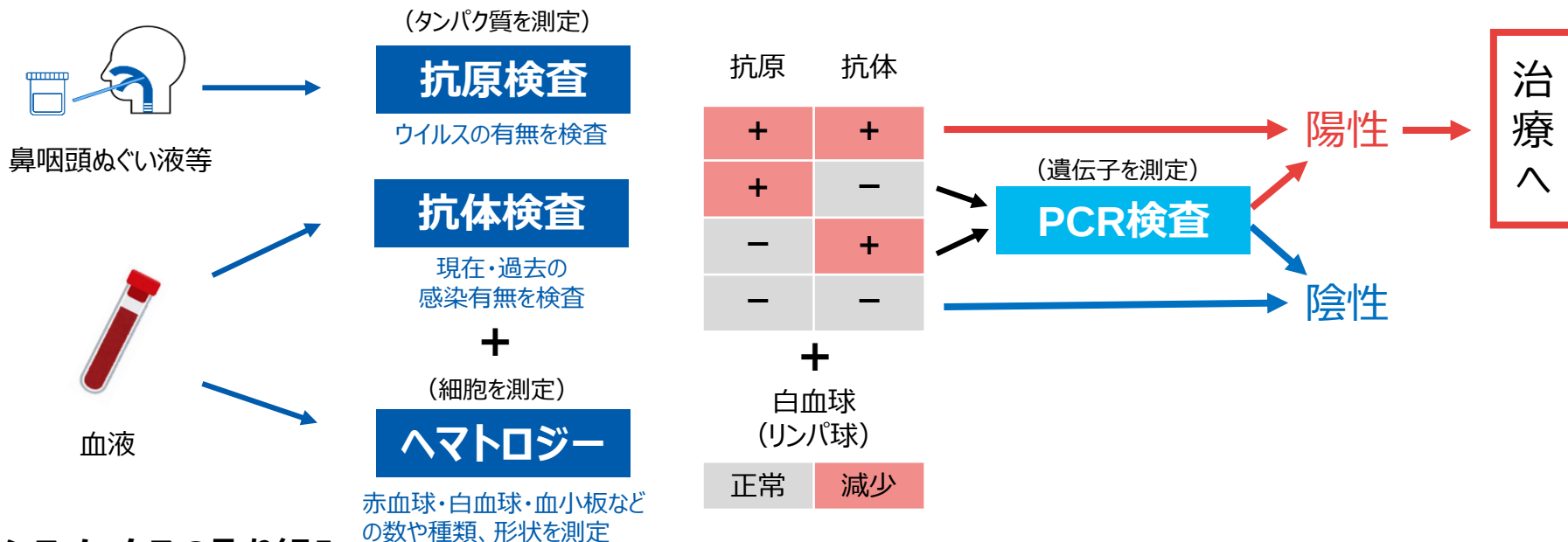
■ 健全な財政基盤

- ✓ キャッシュフローに問題はなく、事業継続に影響なし
（3月末流動比率は約240%）
- ✓ 高格付の維持（R&I AA-）

■ 持続的な成長に必要な投資は継続

新型コロナウイルス感染症への取り組み（初診時）

シスメックスの考える検査フロー：抗原・抗体検査を最初に行うことで、PCR検査を必要な方のみに実施



シスメックスの取り組み

■ 抗原検査の開発（鼻咽頭ぬぐい液等）

- HISCLを用いたアッセイ系を構築【完了】
- 5月中旬より臨床評価開始、早期の薬事承認を目指す

■ 抗体検査の開発（血液）

- HISCLを用いたアッセイ系を構築【完了】
- 5月中旬より臨床評価、研究用検査薬として早期に上市予定



■ PCR検査キット国内販売（BGI社製）

- 国内初の薬事承認取得

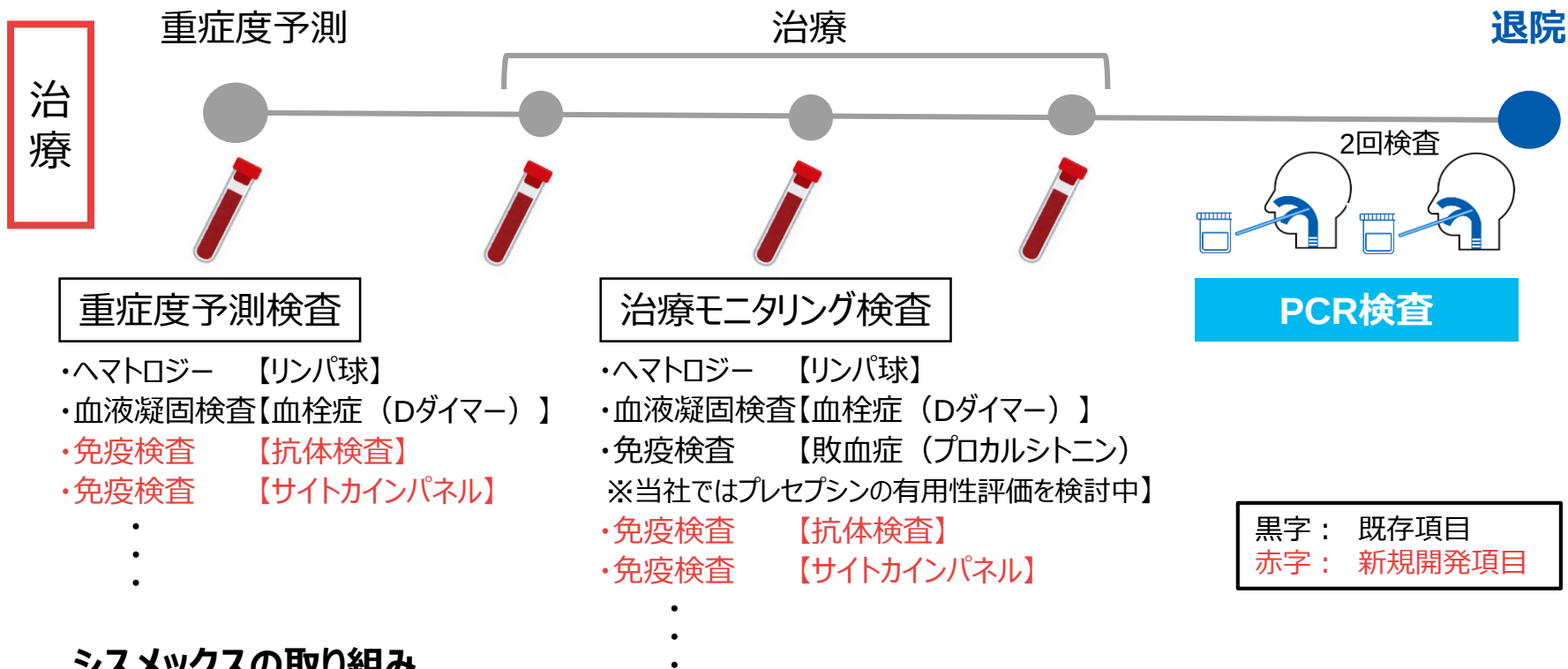


（2020.03.27 プレスリリース）

※HISCLでは、抗原・抗体検査を**17分/検体（最大200検体/時間）**で、**高感度**に**定量測定**が可能

新型コロナウイルス感染症への取り組み（治療時）

シスメックスの考える検査フロー：治療初期の重症度予測ならびに治療モニタリングの実施



シスメックスの取り組み

■ 重症度予測／治療モニタリング検査の開発

- ・ HISCLを用いたサイトカインパネルのアッセイ系を構築**【完了】**（サイトカインストームのモニタリング）
- ・ 研究用にて、ラボアッセイサービスを6月から開始予定

※サイトカイン：細胞から分泌されるタンパク質であり、細胞間相互作用に関与する生理活性物質の総称。感染が広範に及ぶと、炎症の応答も強くなり、炎症性サイトカインが大量に放出されることで、免疫細胞による急性多臓器不全が生じる。結果として呼吸不全や敗血症、凝固異常など重症病態を生じる

A large, solid blue square located on the left side of the slide.

(補足資料)

第4四半期業績比較

	2020年3月期 第4四半期		前年同期 第4四半期		(億円) 前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	838.1	100%	851.3	100%	98.5%
売上原価	417.2	49.8%	393.3	46.2%	106.1%
販売費及び 一般管理費	217.9	26.0%	209.2	24.6%	104.2%
研究開発費	55.7	6.7%	62.4	7.3%	89.2%
その他の営業損益	1.3	0.2%	0.8	0.1%	165.7%
営業利益	148.6	17.7%	187.1	22.0%	79.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	83.8	10.0%	123.1	14.5%	68.1%

	2020年3月期 (第4四半期)	前年同期
1USD	108.9円	110.2円
1EUR	120.1円	125.2円
1CNY	15.6円	16.3円

- **売上高** 米州、EMEAにおける代理店向け売上の減少、新型コロナウイルス流行の影響などがあるも、円高の影響を除けば微増
- **営業利益** 円高の影響や、新型コロナウイルス流行により中国での原価率が悪化したことなどにより、減益
 - 為替の影響 売上高 △23.9億円 営業利益△20.2億円
 - 前年同期為替レート適用の場合 売上高 101.2% 営業利益 90.2%
- **当期利益** 営業利益の減少や、為替差損の増加により減益
 - 為替差損益 △15.7億円

所在地別実績（売上高・営業利益）

		2020年3月期	前年同期	前年同期比	
				円貨	現地通貨
米州	外部売上高	661.8	659.5	100.4%	102.4%
	営業利益	28.5	35.8	79.8%	81.4%
EMEA	外部売上高	785.9	776.0	101.3%	107.6%
	営業利益	83.4	70.9	117.7%	124.9%
中国	外部売上高	799.6	781.1	102.4%	108.5%
	営業利益	57.2	91.2	62.8%	66.8%
AP	外部売上高	266.8	247.5	107.8%	-
	営業利益	31.1	31.1	100.2%	-
日本※	外部売上高	505.4	470.7	107.4%	-
	営業利益	362.8	389.9	93.0%	-

※IDEXX社等含む外部売上高

Partec社が黒字化、Inostics、理研ジェネシスは業績改善へ向けた取り組みを継続

- Inostics : 日本でのRASキット製造販売承認取得など進展はあるも、営業赤字が継続
- Partec : インド向けCD4カウンターなどが貢献し、営業黒字を達成
- 理研ジェネシス : NCCオンコパネルの売上増加により、2021年3月期の黒字化を計画
- OGT : 米国、欧州を中心としてFISH試薬などが堅調に推移、営業黒字を継続

(億円)

		2020年3月期 実績	2019年3月期 実績	増減
Inostics	売上高	13.7	15.2	△1.5
	営業利益	△7.2	△9.1	+1.9
Partec	売上高	25.7	20.4	+5.2
	営業利益	1.8	△1.7	+3.5
理研ジェネシス	売上高	23.6	22.5	+1.1
	営業利益	△1.6	△1.4	△0.2
OGT※	売上高	33.8	37.1	△3.3
	営業利益	3.2	6.1	△2.9

※Oxford Gene Technology社は2017年7月から子会社化

持続的な成長を支えるCSR課題への取り組み

・ 非財務目標としてモニタリング

当社のCSR課題（マテリアリティ）		主なKPI	2019年3月 期末実績	2020年3月 期末実績*1
製品・サービスを通じた 医療課題解決   	事業活動を通じた医療課題解決	ヘマトロジー市場シェア	53.8%	(集計中)
	製品普及等による医療アクセスの改善	新興国売上高比率	39.5%	39.7%
責任ある製品・サービスの 提供  	サプライチェーンの評価・管理	CSR調査数	85.0%	99.2%
魅力ある職場の実現  	働きやすい職場環境の確保	離職率	3.78%	3.09%
		労働災害度数率	0.89	0.86
		労働災害強度率	0.06	0.08
	人材の育成	平均教育時間	16.6時間	17.0時間
環境への配慮    	製品ライフサイクルにおける 環境配慮	CO ₂ 排出量の削減率 (機器製品使用時)	3%増	4%増
		水消費量の削減率 (機器製品使用時)	1%減*2	3%減
		CO ₂ 排出量の削減率 (出荷物流)	1%増	17%減
ガバナンスの強化  	コンプライアンス	内部通報件数	14件	11件
		倫理違反件数	9件	7件

*1 2020年4月末時点の速報値。シスメックスレポート(統合報告書)で確定値を開示予定。

*2 定義の変更に伴い過去の開示データから修正

Lighting the way **with diagnostics**